

共同運営部門：手術センター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼麻酔科主任部長	小林 俊司

＜関連部署＞

部署名	部署名
麻酔科	外科系各科
腎臓内科	血液内科
臨床工学・技術部門 臨床工学	循環器内科

＜特色と概要＞

手術センターは病院りんくう側4階に位置し、手術室は今年度6月に7番目の手術室としてハイブリッド手術室が増設稼働し、7室体制となった。主な関係部署としては、手術センター、麻酔科、手術を行う外科系各科、腎臓内科(シャント関連の手術)、血液内科(骨髄採取)、臨床工学センターなどがあげられる。今年度はハイブリッド手術室増設に伴い、後述する経カテーテル大動脈弁置換(TAVI)が開始されたことから、循環器内科が関係部署に名を連ねることとなった。また、症例や手術内容によっては臨床検査技師、薬剤師、助産師、事務、通訳等の各職種や、小児科の医師とも協働している。

手術室は7室のうち原則6室を予定手術用とし、1室は緊急手術用としている。当センターには、泉州広域母子医療センター、心臓・血管センター、脊椎センター、人工関節センターなどが存在し、緊急度の極めて高い緊急手術が比較的高頻度に発生するため、このような体制をとっている。

2024年度の予定手術枠は、以下の通りであった。

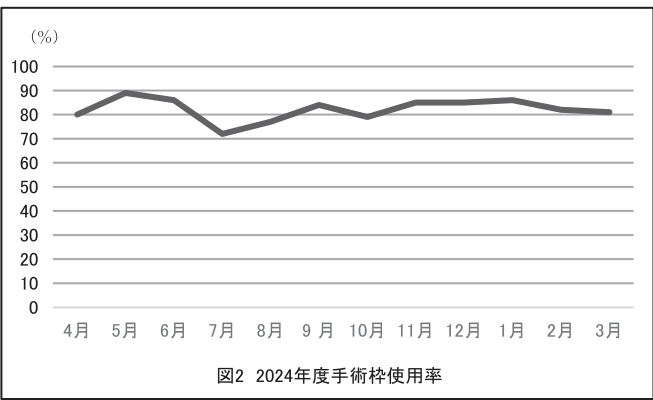
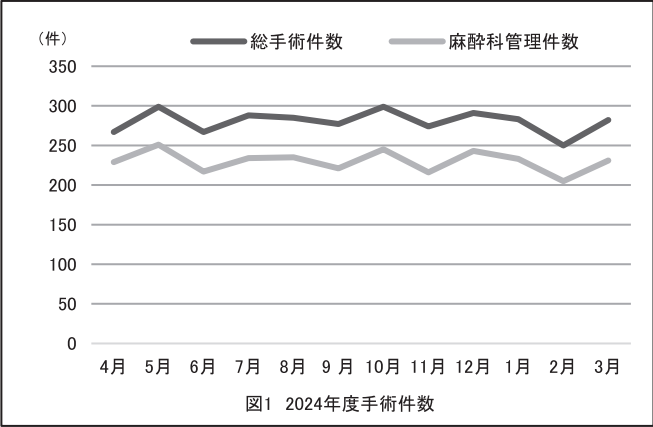
月		火		水		木		金	
緊急	外科(乳腫)	外科(肝胆腫)	外科(下部)	外科(乳腫)	外科(下部)	整形外科	形成外科	心臓血管外科	脳外科(血液内科)
外科(下部)(ダビンチ)	外科(上部)(ダビンチ)	外科(上部)(ダビンチ)	外科(上部)(ダビンチ)	外科(上部)(ダビンチ)	外科(上部)(ダビンチ)	小児外科	外科(下部)	泌尿器科	産科
整形外科	脳外科	泌尿器科(ダビンチ)	泌尿器科(ダビンチ)	泌尿器科(ダビンチ)	泌尿器科(ダビンチ)	心臓血管外科	外科	泌尿器科(第1週目)	救急科
心臓血管外科	耳鼻咽喉科	外科(肝胆腫)	産科	心臓血管外科	外科	泌尿器科(第1週目)	救急科	救急科	救急科
整形外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	耳鼻咽喉科(第2週)	耳鼻咽喉科(第2週)	耳鼻咽喉科	救急科	救急科	救急科
外科(上部)	呼吸器外科	口腔外科	呼吸器外科	腎内(第1・3週)	形成外科	形成外科	形成外科	形成外科	形成外科
緊急	産科	緊急	口腔	循環器内科泌尿器科(第2週)	緊急	緊急	緊急	緊急	緊急

＜実績＞

2024年度の月別総手術件数および麻酔科管理件数を図1に示す。COVID-19の流行により、2020年以降減少を余儀なくされた手術件数は、徐々に回復に転じ、今年度も昨年を上回ったものの、コロナ禍以前までの回復には至らず、年間総手術件数は3,362件、麻酔科管理症例数は2,760件であった(アンギオ室内の手術は含まず)。

また手術枠の使用率を図2に示す。枠使用率は手術数と

並んで、重要な手術センター稼働率の指標となるもので、昨年度からその数値化を導入した。85%の枠使用率を一つの目標として定め、それを目指している。本年度においては、年平均で82%とやや目標を下回った。



＜今年度の反省と来年度への抱負＞

前述した通り、コロナ禍で低迷した手術数は年次的に回復傾向にあるが、今年度はコロナ禍以前の手術数までには回復できなかった。手術室増室も踏まえるとコロナ禍以前を凌ぐ手術数が期待される場所である。来年度は、更なる集患と手術数増加に向けて、外科系各診療科の奮起が望まれる。

一方で、手術センターの新しい取り組みとして、2023年度開始されたロボット支援下手術は、今年度も消化器外科、泌尿器科で症例数を重ね、112例に及んだ。また、先述したTAVIは1月に第1例目を行い、今年度中に3例を実施した。こうした新しい手術はいずれも従来の手術法に比し、患者負担を軽減する術式であり、これをもって手術対象患者の拡充に繋げ、ひいては来年度以降の手術症例数増加に寄与するものと考えられる。